

「幻のサメ」全身骨格標本

世界初 鳴川シーワールド公開へ

館山沖で定置網に迷い込み、その後死んだ雌の「メ



今年2月に行われたメガマウスサメの解剖に立ち会う子供たち（鳴川シーワールド提供）

ガマウスサメ」（体長約5・4メートル、体重約1・2ト）

を引き取り、標本化を進めていた鳴川市の水族館「鳴川シーワールド」は20日、メガマウスサメとしては世界初となる全身骨格の標本が完成し、来月7日から一般公開すると発表した。

同水族館によると、メガマウスサメは発見されてから40年ほどで、生態もよくわかっていないため「幻のサメ」といわれる。捕獲例は世界で135例しかない

く、このうち日本では23例という。

今回のサメは昨年5月22日、館山市洲崎沖で定置網の中にいるのが見つかり、翌日に死んだ。同水族館が調査研究に役立てようとして引き取り、サメの生態に詳しい仲谷一宏・北海道大名誉教授らが今年2月に解剖。仲谷氏の監修で「吉田生物研究所」（京都市山科区）が標本化に取り組んでいた。

メガマウスサメは骨が水

分を含んだ軟骨のため標本化が難しく、全身骨格の標本はこれまでに実現していなかったという。同水族館は公開開始翌日の8日、仲谷氏の特別講演会を午後0時半から行う予定だ。